

東農大ボクシング部・山本監督に聞く／BOX

2016.4.21 16:02

プロボクシングで三階級制覇を成し遂げた、現WBAフライ級チャンピオン井岡一翔(井岡)、アテネオリンピック代表からWBC世界フライ級チャンピオンに駆け上がった五十嵐俊幸(帝拳)、県議として故郷、福井県のために活躍中の元WBA世界スーパーフライ級チャンピオン清水智信(金子)ら、数多くの名選手を輩出した緑のユニフォーム「NODAI」エンブレムの伝統校、東京農業大学ボクシング部、山本浩二監督から第69回関東大学ボクシングリーグ戦開幕前に話を聞いた。(岩崎仁)

―今年目標は

山本監督「3年連続で準優勝のため悔しい思いをしている。今年こそは優勝をしたい。昨年王者、日大が最大のライバルだが、他の1部校もちろん油断できない」

―リーグ戦に向けてチームの雰囲気は

「活気がある。全選手が高い目標を個々に持っている。今年の新チームは『最後まで絶対にやり抜く』ことを意識してもらっている。リーグ戦については、その時に最も強い選手を出すことにしている。チャンスは全員にある。リーグ戦の試合前に選考スパーリングを実施し、学年に関係なく出場者を決定する。もちろん、新1年生もリーグ戦に出場することがあり、彼らは、高校の大会が終わっても、農大に入学することが決まった時点でリーグ戦を目標に練習をして、大学に入学してくる」

―今年東農大のキーマンは

「バンタム級の3年生で全日本ランキング3位の中野幹士(竹台)と、2年生で全日本チャンピオンの森坂嵐(奈良朱雀)」

―全日本選手権で活躍した選手を優先的に出場させるのか

「全日本で活躍したからといって、リーグ戦に出場できる保証はない。常にチーム内で競争である」

―練習メニュー等については

「部員全員寮生活で、朝6時半から世田谷エリアでロードワークを1時間程度行う。雨の場合はキャンパスの階段でトレーニングか、道場でフィジカルトレーニングを行う。夕方のジムワークは全体で90分間。その後、自主練習や各自筋トレを行う」

―高校生のスカウト活動はどのように行っているのか

「全国大会、地方大会に私と高橋雄介コーチの2人で足を運びスカウト活動を行う。また、OBからも情報をもらい、その選手はマークしている。最終決定は監督である私が行う。もちろん、他校との競合になる場合があるので、思い通り新人が入学するわけではない。毎年、6名前後の新生が入ってきており、地域や学校に偏りはなく全国から選手は集まっている」

―大学時代にボクシングを選ぶ学生について思うことは

「学業とスポーツの文武両道を目指してほしい。選手は、何のためにスポーツをするのか、それを明確にして、スポーツに対する価値観を高めスポーツ競技力に繋げてもらいたい。時間の使い方次第では、お盆、正月も休みもあり、普段も学校に通って他の学生と接し、メリハリのある生活ができると思っている」

――コーチ陣の体制について

「部の指導陣は私と高橋コーチの2名体制で、選手指導と生活面をサポートしている」

――関東大学ボクシングリーグ戦の位置づけは

「単なる大学生の大会ではなく、日本のアマチュアボクシングの中核的大会だ。日本のトップ選手が集まり、多くの子供達に新鮮なプレーとスポーツマンシップにおいて見本となる技術や礼儀を伝承する大会である」

東京農業大学ボクシング部

1925年創部、今年で91周年。関東大学ボクシングリーグ戦の優勝回数は8回。

山本浩二監督

1969年7月2日生まれ。宮崎県・日章学園出身、日本ボクシング連盟常任理事、JOC選手強化本部委員

 Copyright (C) 2016 SANKEI DIGITAL INC. All rights reserved.